大貫タケシ 後援会ニュース

発刊　２０２５年１月
発行　大貫タケシ後援会

住所　鹿沼市上殿町 276-4
TEL　0289-74-7311
FAX　0289-74-7321
Mail　takeshi@one.bc9.jp

第　３９　号

県政の課題をより身近に

～暮らしの中の課題を第一に～

２０２５年のスタートにあたり、本年が皆様にとって素晴らしい年となることを心より念願します。また、皆様にお世話になり、昨年十一月に県議会議員に初当選させて頂き、心より感謝申し上げます。

「なんか存在が遠くなってしまうね」と声をかけていただくことがありました。県議会は、市民の皆様からは遠い存在と感じられているのですね。確かに市議会議員は、人数も多いし、地域の代表として、より身近な政治家と言えます。国会議員は市民にとって身近な存在とは言えませんが、国会の議論がメディアに取り上げられることは、市議会や県議会の比ではありません。また、国会で決められた制度や法律は、私たちの生活に直結してきます。一方、県議会議員は人数も限られていますし、「県の仕事が私たちの生活にどう関わっているのか見えない」、ということかと思います。県道など広域的な道路行政、農業の基盤整備、河川の管理などは県の役割ですが、地方分権が進み、福祉を始めとして市民生活に係わる仕事の多くが市に移管され、県の役割が縮小されたことも要因かもしれません。

以前は、県は国の出先機関的な側面がありましたが、現在は法的には国と地方は対等の関係となりました。県は国の情報をただ市町に伝達するだけでなく、住民サービスの最前線で課題となっていることを、県が調整し財源も含めて援助する、時には国に対して提言を行なうことも、これからの役割と考えます。私自身も皆様の暮らしの中の課題を第一に取り上げ、県政をより身近に感じてもらえるよう努力していきます。また、私が掲げた「大貫タケシの取り組む５つのつくる」についても、県政の場で実現を求めていきます。

大貫タケシが取り組む５つのつくる

豊かさを実感できる栃木へ～人への投資に全力投球

1　介護の安心をつくる

介護サービスの質の確保。介護人材の育成・確保。
介護職の処遇改善。在宅医療の充実。

2　子育ての安心をつくる

保育の質向上。保育士の処遇改善。
学童・放課後児童クラブの充実。

3　女性が活躍する職場をつくる

女性の賃金改善。女性が働きやすい職場の創出。
女性管理職の登用支援。

4　明日の農業・林業を担う人材をつくる

農業・林業するなら「栃木で」を全国に発信。
農業・林業の新規就業者支援。

5　若者がチャレンジできる機会をつくる

若者の起業支援。若者の再チャレンジ支援。
ものづくり県を支えるものづくり人材支援。

大貫タケシの議会報告

昨年、１２月１０日から１２月２６日まで県議会（第４０４回通常会議）が開催されました。大貫タケシにとっては、昨年の１１月に初当選後、初の議会となりました。議会初日の冒頭に、議場で議長より新人議員の紹介を受け、一言、挨拶をさせて頂きました。（写真左）

６選を果たした福田知事より、所信表明と議案の説明を受け、とちぎ自民党議員会、公明党栃木県議会議員会、民主市民クラブから代表質問の他、９人の議員から質問があり、議論が行なわれました。今議会では、一般会計補正予算や条例等を決定しました。以下、その主な内容を報告します。

「人への投資」と少子化トレンドの反転
～福田知事の所信表明より～

今議会の議案説明の冒頭、６期目の県政運営にあたり、知事から所信表明がありました。以下、その要旨を記載します。

一貫して県政運営の基本としてきた「対話と協調」、「県民中心」、「市町村重視」を改めて徹底する。５つの柱に沿って取り組みを進める。

①「人への投資」と少子化トレンドの反転、②「女性・若者の活躍」を全力応援、③「健康安心な栃木」の実現、④「稼ぐ力」を伸ばして更なる「豊かな県」へ、⑤Ｘ（トランスフォーメーション）で「栃木の未来創造」。これらを通して「誰もが未来に夢や希望の持てる栃木」、「豊かさと幸せを実感できるとちぎ」を実現する。

知事の所信表明を聞いて、私が県議補選で掲げた「大貫タケシが取り組む５つのつくる」（１面参照）と共通する内容が多いと感じました。今後、県議会の中で私なりの見解を県執行部にぶつけ、知事が掲げた５つの柱の具体化と「大貫タケシが取り組む５つのつくる」の実現を迫っていきます。

また、県政が国の方を見ているのか、市町の方を見ているのかによって、行政運営も随分違ってきます。「県民中心」、「市町村重視」の県政を貫いていくことを求めます。

一般会計補正予算（約４８０億）を決定

一般会計予算において、国の補正予算を受けての追加分と合わせて、約４８０億円の補正予算を決定しました。主な内容は、首都圏からの県内移住者の増加を受け、移住支援経費の増、人事院勧告に基づく職員給与の引き上げによる職員費の増、国の補正予算を受けての公共事業費の増などです。

「栃木県水と緑の南摩の里設置及び管理条例」を制定

南摩ダムに係る水源地域の大規模な水辺空間と豊かな森林を生かしたリクリエーション施設が整備されるため、その施設を管理するための条例です。具体的には、ダムサイト付近に、フィールドアスレチック、ジップライン、つり橋が整備されます。ジップラインとつり橋は湖面を横断するもので、かなりスリリングなものとなります。利用料は、１人１回、５千円から８千円です。運営は指定管理者制度により、民間事業者が行ないます。新たな誘客スポットとなることを期待します。

会派「民主市民クラブ」に所属しました

右の写真は、県議会のホームページに掲載されているものです。所属会派は、民主市民クラブ（６人）に所属します。常任委員会は６つありますが、私は県政経営委員会に所属となり、県行政の総合企画、広報・広聴、県の予算、組織、税務・災害対策など、総合政策部や経営管理部、危機管理防災局などで所管する事項について、調査・審査します。

ホームページには、県民に親しまれるよう、各議員が関心事や趣味、座右の銘などを掲載しています。私は座右の銘として、**「我以外皆我師也」**（われいがいみなわがしなり）としました。みなさんの意見に真摯に耳を傾け、学ばせて頂きます。

市に対して政策提言書を提出しました

昨年の１２月２７日、松井市長に対して、立憲民主党鹿沼市支部、鹿沼市議会「つながるかぬまネットワーク」の連名で、政策提言書を提出しました。私たちは、年４回の議会が終わった後、議会報告を兼ねて市民との対話集会（タウンミーティング）を開催して来ました。対話集会の中で参加者のみなさんから頂いたご意見を元に、２０項目の提言をまとめました。提言に対する回答は、２月上旬に頂くことにしています。次回の対話集会（タウンミーティング）でみなさんに報告致します。

鹿沼市に対する政策提言書

立憲民主党栃木県鹿沼市支部
つながるかぬまネットワーク

① １０回を重ねた鹿沼まるごと博物館の企画展はそれぞれ好評を博している。これらの成果を踏まえ、常設展示を行なえる「鹿沼まるごと博物館中央館」の整備を行なうこと。

② 鹿沼市図書館本館の指定管理者制度導入が検討されているが、図書館法第十七条では、「公立図書館は、入館料その他図書館資料の利用に対するいかなる対価をも徴収してはならない。」とされており、本来、図書館は指定管理者制度に馴染まない施設であることから、指定管理者制度の導入は行なわないこと。図書館司書を定期的に採用し、図書館機能の充実を図ること。

③ 各種選挙において、若年層の低投票率が指摘されている。投票率を引き上げることが目的ではないが、将来の鹿沼市の自治を担う人材を育成するため、行政や議会と連携し、鹿沼市の課題を基にした具体的かつ実践的な主権者教育の取り組みを模索すること。

④ 子どもの貧困対策が叫ばれて久しいが、その対策として就学支援制度の充実が求められていると考える。具体的には、対象枠の拡大（生活保護基準の１．５倍を引き上げること）、申請しやすい工夫（児童生徒全員から申請を受けるなど）を行なうこと。

⑤ 物価高騰の影響を受けて、障がい者の日常生活用具購入に相当な自己負担が生じる物もあることから、日常生活用具の給付基準の見直しを行なうこと。

⑥ 老朽化が激しい斎場について、建替えを行なうこと。

⑦ 見笹霊園に整備が予定されている合葬墓について、宇都宮市と同様に生前申込みが出来る制度とすること。

⑧ 地域公共交通のさらなる充実を図ること。まちなか線の見直し（例えば、まちの駅を結節点として、まちなか循環と東部台地区循環に分離）、高齢者へのタクシー券助成、菊沢スマイル号のような地域共助型交通の整備などを行なうこと。

⑨ 空き室の目立つ市営住宅について、子育て世代への低額での入居、高齢者向け住宅への転換（エレベーター設置、生活援助員の配置など）を図ること。

⑩ 土砂災害警戒区域、浸水想定区域内の太陽光発電設備設置は原則認めないよう「鹿沼市自然環境等と再生可能エネルギー発電設備の設置事業との調和に関する条例」を見直すこと。設置業者の中には除草等適正に管理しない者も見受けられることから、市が適切な指導を行なえるよう条例を見直すこと。

⑪ 荒井川、栗野川など西北部の河川上流には災害発生につながる恐れのある林地残材が見受けられる。栃木県とも連携し、林地残材の撤去を計画的にすすめること。

⑫ 全国各地で老木となった公園内の樹木、街路樹の倒壊が問題となっている。点検及び管理、危険となった樹木の伐採を徹底すること。街路樹については、管理しやすいものへ樹種変更を検討すること。

（以下次ページへ）

⑬ 道路に隣接する樹木が大きく張り出している箇所が市内各地に見受けられる。大雨、大雪、強風などの自然災害による道路や電線への倒木被害などを未然に防ぐ予防伐採をすすめること。危険性が高い箇所については、道路管理者の責任において早急に伐採等を行なうこと。全国的には伐採に際して、補助金を交付している事例もあることから、本市でも導入を検討すること。

⑭ 東武新鹿沼駅前の再開発については民間事業者の動きに呼応し、行政としても計画づくりなど必要な検討を行なうこと。

⑮ 自伐型林業の普及啓発と担い手育成を行なうこと。林業大学校とも連携し、新規就業者の育成支援を行なう鹿沼モデル（地域おこし協力隊制度の活用、空き家を活用した住宅補助、就業にあたっての初期経費の補助など）を検討すること。

⑯ 森林環境税、とちぎの元気な森づくり県民税などの活用により、森林整備が進められていることは好ましいことであるが、一方で大型機械用の作業道敷設により災害発生への危惧が周辺住民に高まっている。栃木県とも連携し、災害発生を引き起こさないようより安全な森林整備のあり方を検討すること。

⑰ 農業公社（生産法人かぬま）を新規就農者の担い手育成組織としての機能を持たせ、米や麦、大豆など土地利用型農業の担い手を育成するプログラムを検討すること。

⑱ 多発する大規模自然災害に対応するため、各避難所への空調設備の導入を促進すること。

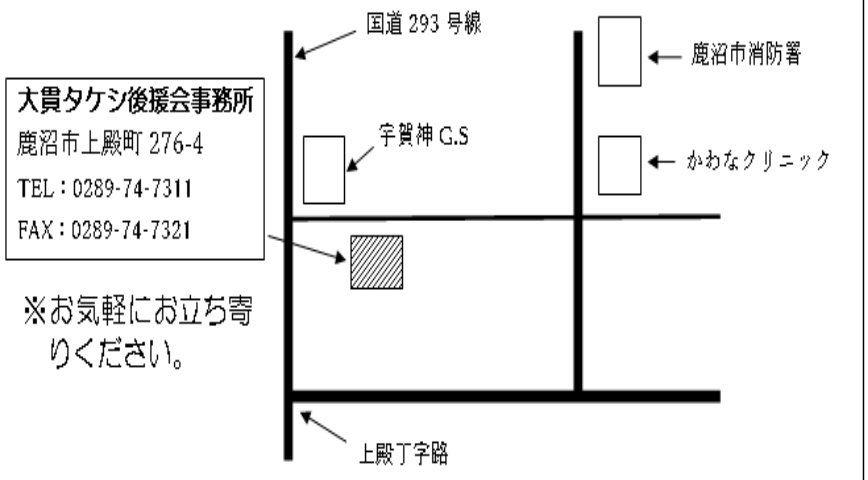
⑲ 来年は戦後８０年を迎えることから、さらなる平和行政の充実を図ること。戦後７５年を期に作成した戦争体験ＤＶＤを教材用に再編集するなどし、学校教育でのさらなる活用をすすめること。

⑳ 来年は粟野町との合併２０周年を迎えることから、水資源機構が退去した後の旧粟野町役場の活用方法について検討を行なうこと。

大貫タケシ事務所開設しました

松井正一市長が使っていた、上殿町の事務所（左地図を参照ください）を、引き続き大貫タケシ事務所として利用させていただくことになりました。平日、**午前１０時から午後４時**まで開いておりますので、お気軽にお立ち寄りください。県政に対する意見や要望、暮らしの中のお困り事などお寄せください。

大貫タケシ事務所案内図



大貫タケシ・プロフィール

生年月日　1960 年 9 月 26 日生（64 歳）

〇学歴

西大芦西小学校、西中学校、鹿沼高校を経て
宇都宮大学農学部農業経済学科卒業

〇職歴

1983 年 4 月より 28 年間鹿沼市役所勤務
2011 年 9 月より市議会議員 4 期
2024 年 11 月栃木県議会議員初当選

記事に対するご意見、県政等に関する意見・要望などございましたら、遠慮なく下記までお寄せください。

〈大貫タケシ事務所〉
ＴＥＬ　0289-74-7311
ＦＡＸ　0289-74-7321
携帯　０９０－７７３６－２０１７
メール　takeshi@one.bc9.jp